

平成24年度 事務事業評価シート

※平成23年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	美術館施設使用事業					継続							
コード	28	-	23	-	01	-	01	予算事業名	美術館運営管理				
担当部署	文化スポーツ部	美術館			予算事業コード	会計	02	款	01	項	18	目	01

1. 事業の位置付けと関連計画等

第三次川越市総合計画後期基本計画における位置付け 位置付けなしの場合

基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐぐむまち	根拠となる法令、条例等	地方自治法、川越市立美術館条例
方向性(節)	2節	歴史文化の継承と新しい市民文化の創造	個別計画等の名称	なし
施策	1	芸術文化活動の充実		
細施策	3	文化施設の利用促進		

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	創作活動並びに発表を行う方。また、この発表を観覧する方。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	市民ギャラリー・創作室の空き状況や利用方法の問い合わせ対応。貸出しにかかる利用申請受付や開閉室事務。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		2,625	2,527	2,365	2,477	2,389	
事業費	A	2,550	2,306	2,386	2,369	2,389	2,300
	B	370	370	370	370	370	370
総コスト(C=A+B)		2,920	2,676	2,756	2,739	2,759	2,670
正規職員(1年間の従事人数)		0.05人	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人
臨時職員(1年間の従事人数)		0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
国県支出金	D	0	0	0	0	0	0
その他特定財源	E	1,102	1,339	1,171	1,387	1,131	1,200
市の財政負担(=C-D-E)		1,818	1,337	1,585	1,352	1,628	1,470

※24年度、25年度の事業費、人件費は見込額
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

成果	中心指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	指標の定義
成果	市民ギャラリー利用人数	人	35,782	32,181	25,022	24,881	市民ギャラリーの年間観覧者数
成果	創作室利用人数	人	2,530	2,360	2,554	3,107	創作室の年間使用者数
成果	市民ギャラリー使用日数	日	263	231	225	194	年間使用日数
成果	創作室使用件数	件	210	219	262	258	年間使用件数(一日を3時間帯に分けているため)
中心指標の考え方		本事業は、成果指標を中心に評価する。					
指標に基づく評価		市民ギャラリーについては、2つの指標数値とも減少傾向にある。年間を通しての利用の促進が望まれる。創作室に関しては、ゆっくりと上昇している。これは利用者が定着し、継続的な利用が続いているためである					

5. 事業の実施を通じた分析・評価

(1) 現在の課題と状況	効率性に課題
創作室については、現在一日を3つの時間帯に区切り、各時間ごとの貸出しを行っているが、夜間時間帯についてはほとんど利用者がいない。開館当初は、勤め帰りの制作者向けと考えたが、単に利用者がいないのか、宣伝が足りないのか、あるいは駅から遠い立地条件や近隣の夜間防犯対策などがゆきとどかないせいもあるか、検討したほうがよい。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
近隣では、川口アートギャラリーアトリア、うらわ美術館などで展示室を有料貸出ししている。美術の創作可能なアトリエは練馬区立美術館、板橋区立美術館などにある。	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	
市内でも公民館などで、美術制作する貸し施設はある。しかし、美術制作専門に想定してあるのは美術館の創作室だけであり、特に初期投資に費用がかかる銅版画の設備一式を貸し出せることは、気軽に創作への一歩を踏み出す機会を提供していると思われる。創作室で制作し、市民ギャラリーで発表するという、一連の流れを断ち切ることになる。	
(4) 所属長自己評価(今後の方向性)	改善(見直し)
市民の創作活動、作品の発表の場として、設備の整えられた、市民から必要とされている施設であり、今後は効率性の向上を図る必要がある。	